



サイネージ・リレーション

効果的なデジタルサイネージの設置方法 ご紹介

2018年7月

DENEN

さまざまな設置方法

スタンドタイプ

設置場所を自由に変えられるタイプ。

オリジナル筐体タイプ

好みの色や形にすることが可能で店舗のイメージを崩すことなく、お店づくりに貢献

イーゼルタイプ

設置場所を自由に変えられるタイプ。安価。

ウィンドウサイネージ

窓ごしにお客様へコンテンツをアピールしたいときに利用

壁掛け・天吊りタイプ

比較的場所を占有せずに設置が可能。工事が必要になります。

両面サイネージ

ショッピングモールや繁華街など通行量が多い通りに効果的なデジタルサイネージ

半屋外用サイネージ

防水、防塵のデジタルサイネージ。閉店時には機器をしまってください。

完全屋外用サイネージ

激しい雨にも対応した防水、防塵のデジタルサイネージ。24時間稼働可能。

スタンドタイプ

もっとも普及しているタイプ。種類もさまざまあり、設置場所により選べる。



【中型用】～55V型対応
ディスプレイスタンド
PH-915

メリット

移動しやすい（店頭に置きやすい）
価格が安い

デメリット

場所をとる
デザインが限られる



オリジナル筐体

店舗イメージをそこなわず、お店全体のデザインにあわせることが可能です。



メリット
色、形が自由
デザイン性がよい

デメリット
オーダーメイドになるためコストアップ

イーゼルタイプ

移動に適しており、店頭に設置することが多い



メリット

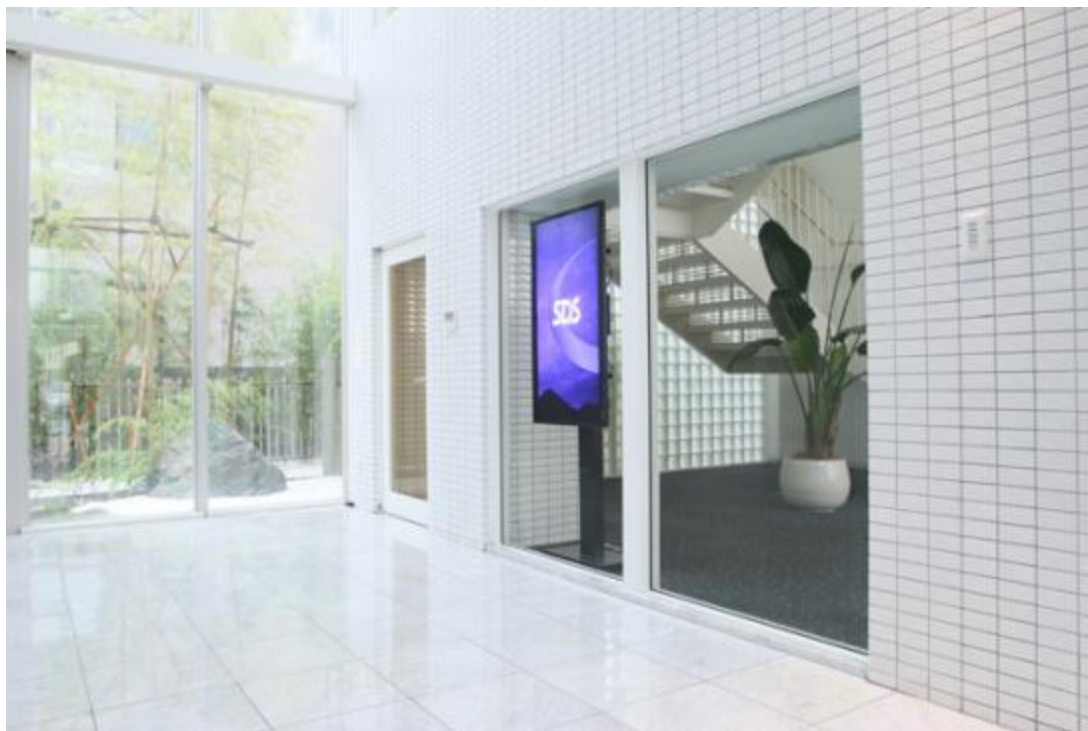
軽いので移動しやすい
この中でもっとも安い。

デメリット

機器の転倒リスク

ウィンドウサイネージ

路面店舗であれば検討したい設置方法



メリット

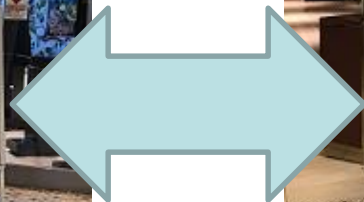
アナログのパネルポスターにはない、動きのある広告を通行人へ訴求できます。
機器は店舗内のため、比較的安く設置できる。
店舗の閉店時もアピール可能

デメリット

デメリットではないが、注意点として南向きの店舗の場合は、輝度の高いモニターを使用する必要があります。

両面サイネージ

1台のSTBで2面分のデジタルサイネージを利用



メリット

往来の多いモールや繁華街で威力を発揮します。広告効果は2倍になります。

デメリット

屋内用となりますので、屋外は不可です。

壁掛け・天吊りタイプ

場所を占有せずに設置が可能。工事が必要ありません。



半屋外サイネージ



メリット

屋外に設置可能
動きのある広告を通行人へ訴求できます。
音も再生できます。

デメリット

台風などの激しい雨には対応していません。また、40度近い猛暑ではブラックアウトが起きやすくなります。

完全屋外サイネージ



メリット
屋外に設置可能
24時間・365日稼働可能
店舗の閉店時もアピール可能

デメリット
半屋外タイプよりコストが高いです。